

# 国見町小坂地区

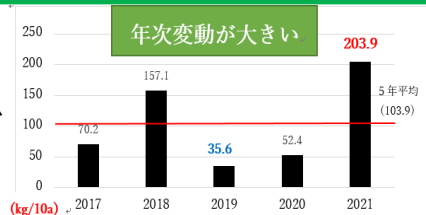
## 1 想定するモデルとしての姿、モデルとする事項

- 排水対策徹底・計画的なブロックローテーション・体系的な難防除雑草対策による大豆単収・品質の高位平準化



## 2 生産概要（中心的な担い手の概要）

- 【作付面積】水稻：36.0ha、大豆：6.7ha（R5）
- 基盤整備を契機に、大豆の作付開始。  
最大14.1haを作付していたものの、収量・品質が安定せず、面積減少  
令和3年度以降の作付面積は徐々に拡大（5.4ha→6.7ha）



## 3 取組のポイント（モデルとして構築する取組）

### <計画的なブロックローテーション>

- 大豆連作障害を避けるため、計画的なブロックローテーションを実施

### <体系的な難防除雑草対策>

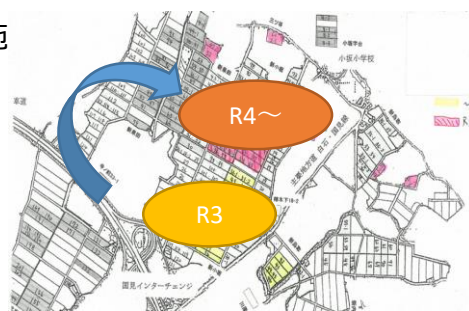
- 帰化アサガオ類、アレチウリ等に対する体系防除の実施

### <排水対策の徹底>

- ほ場準備と並行して額縁明きよ、ほ場内明きよ施工  
及び適期の中耕・培土の実施

### <大豆作業時間調査>

- 新技術導入検討及びモデル地区現状把握のための大豆作業時間調査を実施



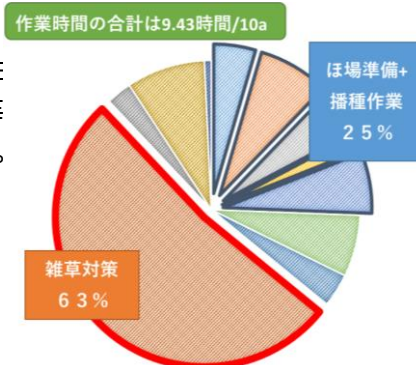
## 4 取組成果

### <高位安定化を実現>

- 計画的なブロックローテーション、適期播種、排水対策の実施により2年連続で高単収・高品質が確保された（2021年204kg/10a、上位等級比率96.7%、2022年174.5kg/10a、上位等級比率96.9%）。

### <大豆作業時間の把握→新技術導入>

- 大豆作業時間のうち、雑草対策にかかる時間が約63%、ほ場準備～播種作業にかかる時間が約25%と高い割合を占めていた。  
作業時間・課題等を畑作物推進チームで共有し、解決に向けた対策を検討した結果、アップカッターによる耕耘同時畝立て播種技術を導入する方針となった。



## 5 課題（6年度のポイント）

- 新技術としてアップカッターによる耕耘同時畝立て播種技術を導入し、作業時間短縮・雑草発生軽減・収量・品質向上効果を検証する。